

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 26 日現在

機関番号：53701

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2011

課題番号：22720232

研究課題名（和文） 発信型英語力向上のための電子語法・文法辞典と演習ソフトの開発

研究課題名（英文） The Development of the Electronic Dictionary of English Grammar and Usage and its Practice Software for the improvement in ability to Speak English

研究代表者

土屋 知洋（TSUCHIYA TOMOHIRO）

岐阜工業高等専門学校・一般科目・講師

研究者番号：20548276

研究成果の概要（和文）：

現代英語の語法文法・フレーズ辞典と演習ソフトを一般に公開できるシステムを構築するという研究は、2年の研究期間で若干の遅れは生じているが順調だといえる。計画では、（1）語法文法・フレーズの項目選定、（2）選定項目の解説執筆、（3）ウェブへの掲載方法の検討とサンプル制作、の3点を掲げ、（1）と（2）は、出版物の評価から、一定の成果があった。（3）は、最終段階で検討を重ねており、今後の実用へ向けた最終段階にある。

研究成果の概要（英文）：

The study to create the system of the electronic or web dictionary of the grammar, usage, and phrases in Present-day English and its practice software, which are available to any English learners, goes according to plan. The study consists of three stages. The first stage is to select the grammar feature, its usages and phrases which learners often use incorrectly. The second stage is to give each item an accurate description of it item by item, based on references, the data of corpora and the reaction of the informants. The third and final stage is to upload the compiled descriptions and to create a sample site. The results of the first two of the three stages, in particular, were obtained, judging from what was published based on the outcomes of this study.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語教育、英語学、現代英語語法文法、フレーズ、コーパス、実証性

## 1. 研究開始当初の背景

近年のIT産業の発展により、英語教育にもE-learningや電子辞書を含め電子機器を導入することが多くみられるようになった。

しかしながら、大量のデータから学習者が本当に必要な項目を選ぶことは困難であり、またそのような学習サイトは現在紙ベースのものしか存在しない。そこで、より自然な英

語を使いこなすのに必要不可欠な語法とフレーズを、厳選し、解説及び演習できるウェブサイト構築することが日本人英語学習者にとって非常に有効なのではないかと考えた。

既存の英和辞典・語法大辞典は、確かに学習には有効であるが、情報多寡である点が、はなはだ英語学習者にとって本当に即実践で運用できる英語力を高める役割を果たしているかは疑問である。いつでも、そしてどこでも必要な情報を入手でき、さらに演習して学べる英語学習サイトの必要性があると考える。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、現在の IT 産業の発展と英語学習の方法における閉塞感を打破するような、より自然な英語を運用できる力を養成する、現代英語の語法文法・フレーズウェブ・電子辞典とその演習ソフトを開発することである。

この研究では、既存の語法文法辞典や電子辞書とは異なり、実際に英語を運用する際に日本人が選択に戸惑う、或いは誤って使用することで不自然な会話や誤解をまねくといった語法やフレーズだけを選定し、使い方の相違を用例とともにまとめて提示し、同時にその演習もが可能となるウェブ・電子サイトの構築を目指す。

## 3. 研究の方法

本研究は、研究の完了までに主に以下に示す3つの研究手順と方法が必要不可欠となる：

- (1) 英語学習者に必要な語法・フレーズの項目選定
- (2) 選定項目の解説記述の執筆
- (3) サンプルサイトの構築とテスト

(1) では、若干の選定項目の修正や変更があったが、日本人が間違えやすい語法や運用に迷うフレーズおよそ500項目を選定した。この選定には、これまで出版されている語法文法辞典や『英語教育』（大修館書店）の QuestionBox、といった文献を中心とした先行研究の参照、そして関連した学会などを参考に選定を行った。

(2) の段階が、本研究の英語学の知見を十二分に利用したものである。[1]で選定された項目をひとつずつコーパス（実際のネイティブスピーカーが運用した大量の言語データ）や先行研究を参考に、これまで述べられてきた辞書や参考書の内容記述が正確なのか、またより学習者に分かりやすい（容易

な説明を目指し）記述を執筆した。文献及びコーパスでの検証結果がある程度出た時点で、結果をネイティブスピーカーに確認してもらい、その妥当性を裏付けたうえで記述の完成に至っている。この第(2)段階では、有料の小学館コーパスネットワークが提供するコーパス(WordbanksOnlineとBNC)、そして各種文献を研究方法として採用した。また、最終的な確認でネイティブスピーカーにも依頼した。

最終の(3)の研究では、執筆したワードファイルの原稿を、いかに学習者が使用しやすい形式でアップロードできるかなどを、検討した。まず、執筆されたワードファイルにハイパーリンクをはり、そこから各語法やフレーズの説明へととぶ形をサンプルとして構築した。理想に近い別のウィンドウへとジャンプする形式ではあるが、ワードファイルとハイパーリンクの数が膨大になるという欠点、またウェブ上にアップロードした場合に解説や問題の体裁が崩れるなどの問題があり、現在、別のアップロードの方法を検討している。

上記の3つの手順と研究方法は、それぞれ別々に進めるというものではなく、同時に進める必要がある。特に(2)には、多くの時間と労力がかかるが、随時、選定項目の必要性や修正を行いながら、学習者が間違えやすい箇所へ適切な解説を執筆する必要がある。また、常に、執筆段階で、どのようなウェブサイトが学習者にとってユーザーフレンドリーなのかを考え、体裁や工夫をこらすことが大切といえる。

### [ 本研究での支援状況 ]

本研究では、各研究段階で助言及び支援を頂ける状況にある。

(1) 及び(2)の段階では、英語語法文法と学習英和辞典に精通した先生の助言を常に頂ける状況にある。特に、大切な(2)の研究段階では、どのような説明記述の仕方が、日本人英語学習者にとって相応しいのか、また実際の記述の正確さは妥当なのかという2点について実際に支援を頂いた。

(3)の選定された解説のアップロードと実際のサイト作成には、研究者本人の文献調査だけでなく、E-learningサイトを実際に作成した先生、そしてE-learningに力を入れている出版社の方の支援を頂ける状況にある。この支援が継続的に得られることで、より充実した現代英語の語法文法・フレーズのウェブ・電子サイトとその演習サイトが構築できると考える。

## 4. 研究成果

本研究の「現代英語語法文法とフレーズ」

を一般に公開できるシステム（ウェブ・電子辞典及び演習ソフト）を構築するという目的は、2年の研究期間で若干の遅れは生じているが順調に進んでいるといえる。計画では、（1）語法文法・フレーズの項目選定、（2）選定項目の解説執筆、（3）ウェブへの掲載方法の検討とサンプル制作、の3点を掲げた。

計画の（1）と（2）は、共著で出版した『「なぜ」がわかる動詞+前置詞』（ベレ出版）が、多くの英語学習者に読まれていることから、選定項目とその説明の記述は一定の評価を強調してもよいかと考える。また（3）は、どのような形で提示することが、より一般の学習者の目に触れ、また使いやすいのかという、実用前の最終段階で検討を重ねている。

実験段階では、サンプルとしてワードファイルとハイパーリンクを用いた簡易的なサイトを作り利用したが、アップロードの際に、形式が崩れるなど、現段階では、理想とはかけ離れた出来といえ、今後、実用に向け検討を重ねユーザーフレンドリーなサイト・演習ソフトの構築を目指すことになる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- 1) 土屋知洋、「データに基づく実証的研究と英語研究の新展開—語から文へ—」『岐阜工業高等専門学校紀要 第47号』pp. 1-6. 岐阜工業高等専門学校. 2012. （査読有）
- 2) 土屋知洋、「コーパスに基づくフレーズ研究—『「なぜ」がわかる動詞+前置詞』の特徴と学習効果—」『情報処理教育・研究報告 第39号』pp. 47-50. 岐阜工業高等専門学校. 2012. （査読無）
- 3) 土屋知洋、「「客観性」と補文標識 *that* の出沒—“確信性”を表す *sure, confident, certain* の比較—」『岐阜工業高等専門学校紀要 第46号』pp. 15-19. 岐阜工業高等専門学校. 2011. （査読有）
- 4) 土屋知洋、「データに基づくフレーズ研究と英語教育への貢献：「美味しい紅茶一杯」は *a cup of nice tea* か *a nice cup of tea* か」『情報処理教育・研究報告 第38号』pp. 7-12. 岐阜工業高等専門学校. 2011. （査読無）
- 5) 土屋知洋・中川右也、「電子辞書と紙の辞書の比較研究：学習英和辞典を有効活用するために」『全国工業高等専門学校英語教育学会研究論集 第30号』pp. 83-92. 全国工業高等専門学校英語教育学会.

2011.（査読有）

〔学会発表〕（計3件）

- 1) Tomohiro Tsuchiva、The Relationship between the Existence or Non-Existence of the Complementizer *that* and Speakers' Assertions. JACET. 2011年9月1日.（西南学院大学）
- 2) 土屋知洋、「英語学の知見を英語教育へ：補文標識 *that* の省略制限と学校文法の実態」全国工業高等専門学校英語教育学会. 2010年9月18日.（札幌市教育文化会館）
- 3) 中川右也・土屋知洋、「電子辞書と紙の辞書の比較研究：学習英和辞典を有効活用するために」全国工業高等専門学校英語教育学会. 2010年9月19日.（札幌市教育文化会館）

〔図書〕（計2件）

- 1) Tomohiro Tsuchiva、『A Semantic-Syntactic Study on the Differences between the *That*-Complement and the Zero *That*-Complement』2012. 開拓社：東京. 総ページ208.
- 2) 中川右也・土屋知洋、『「なぜ」がわかる動詞+前置詞』2011. ベレ出版：東京. 総ページ342.

○出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土屋 知洋 (Tsuchiya Tomohiro)

岐阜工業高等専門学校・一般科目・講師

研究者番号：20548276